

令和元年度 第1回 鳥取市総合企画委員会 議事概要

日 時 令和元年7月30日（火） 午後2時30分～午後4時
場 所 鳥取市役所本庁舎6階 全員協議会室
出席委員 井上裕章委員、小谷加代子委員、塩谷義勝委員、清水雄作委員、下田敏美委員、杉本由美子委員、田中節哉委員、馬場一憲委員、浜江和恵委員、林 由紀子委員、森本孝行委員、安田晴雄委員、矢野順治委員、山田康子委員、山根滋子委員、山本暁子委員、吉田雅之委員
欠席委員 上原幸恵委員、河上友香委員、森原昌人委員
鳥 取 市 副市長ほか関係部局長、政策企画課、創生戦略室

1 開会

【高橋企画推進部長】

ただいまより第1回の鳥取市総合企画委員会を開催させていただきたいと思えます。

本日、議事になるまで進行を務めさせていただきます企画推進部長の高橋と申します。よろしくお願ひいたします。開会に当たりまして、羽場副市長が挨拶をいたします。

2 副市長あいさつ

【羽場副市長】

皆さん、こんにちは。副市長をしております羽場恭一と申します。どうぞよろしくお願ひをいたします。

本来ですと、この審議会に諮問をするべく、市長の深澤がごあいさつを申し上げるところですが、あいにく入院加療中ということでございまして、誠に申し訳ございません。かわって、私から一言お礼とお願ひのごあいさつをさせていただければと思えます。

この鳥取市総合企画委員会でございますけど、歴史は古くて、昭和28年の4月に制定された、鳥取市総合企画委員会条例というものに基づいて設置をされております。市の重要課題ですとか市政運営、いろんな面で委員の皆様方の御審議を賜りながら進めていくべく、諮問機関という位置づけでございます。このたびお願ひをしたいものにつきましては、次期鳥取市総合計画について御審議を賜りたいと思っております。

鳥取市は、昨年4月に中核市になりまして、連携中枢都市圏ということで、周辺の1

市5町と連携しながら、いろんな施策を進めておるところでございます。地方創生の時代で、少子高齢化の時代でということもございます、やっぱり単市、単町、そういったものでくくっているだけでは、なかなか地域の活性化は難しいということで、連携中枢都市圏ということでお互いを補いながら、助け合いながら圏域を発展させていこうという新たな取り組みも進めておるところでございます。

それより前にできました第10次総合計画、これは平成28年の3月にできたものでございますけれども、これが5年たちまして、令和3年度からは新たな総合計画の立ち上げになるということで、これにつきまして、先ほど申し上げました中核市になりまして、連携中枢都市圏、いろんな分野で新たな取り組みを始めているという、そういったことも踏まえて、新たな総合計画を立ち上げるべく、いろいろ御検討いただければなと思っております。

あわせて、創生総合戦略といいまして、これは先ほどの10次総、平成28年よりも1年前の平成27年、2015年から国が鋭意進めております地方創生でございます。鳥取市もそれに倣いまして、鳥取市創生総合戦略ということで、ひと・しごと・まちということで、人が大事というスタートラインからスタートをしております。これもかなり年数がたっております。こういったことの検証をしながら、見直しをしながら進めていくべく、いろんな御意見も賜ればというふうに思っておるところでございます。

鳥取市は15年前に市町村合併いたしまして、その当時の人口が20万1,700人とかそのぐらいの、20万を超えて特例市になったという時代もございましたが、直近では18万8,000人を切りまして、18万7,000人ということで、人口は残念ながら徐々に減っております。市の人口ビジョンからいきますと、もう少し減る見込みも立っております。そういった中で、税収もなかなか伸び悩むというような現状もございます。いろんなマイナスの要素もありながら、それでも地域で住んで、住み続けたいという鳥取市になっていくべく、いろいろな施策を強力的に推進していきたいと考えておるところでございます。

皆様方の忌憚のない御審議、御意見を賜りながら、一緒になって進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございます。

3 委員自己紹介

4 委員長・副委員長選出

【高橋企画推進部長】

委員長、副委員長の選出に移りたいと思います。

本委員会の条例によりまして、委員長1人、副委員長1人を委員の互選により選ぶということになっております。互選ということですが、いかが取り計らわせていただけますでしょうか。

もしよろしければ、事務局から御提案をさせていただければと思いますが、よろしゅうございますか。（「よろしいです」と呼ぶ者あり）

それでは、委員長に、前委員会に引き続きまして安田晴雄委員、副委員長には林由紀子委員をお願いしたいと考えております。

皆様の御意見を伺いたいと思います。いかがでございましょうか。

[拍手]

【高橋企画推進部長】

ありがとうございます。それでは、委員長を安田委員、副委員長を林委員をお願いしたいと思います。

それでは、委員長席と副委員長席へ移動をお願いいたします。

[委員長・副委員長席へ移動]

【高橋企画推進部長】

それでは、委員長、副委員長にごあいさつをいただきたいと思います。

【安田委員長】

失礼します。委員長を拝命つかまつりました安田でございます。随分と長い間、この会に出席をさせていただいておりますけども、私の任期は、実を言いますと、副会頭職は10月31日で終了でございます。また後任が出るかと思っておりますけども、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

大変暑い中を、本当に御苦労さまでございます。昨日、私の車の温度計は40度ぐらいになっていたんですが、今日出る前は37.5度ということで、下がっているのいいのかどうかよくわかりませんが、本当に暑くて困っております。

実は今年、私、後期高齢者ということで、大きな保険証をいただきました。この保険証というのはどこに入れればいいのか、通常の保険証ですとカードと同じサイズになっておりますので、そのままカードケースに入れるんですけども、折るわけにいかないですし、

本当に大きな保険証をもらって、感謝どころではなくて、非常に迷惑千万であるなというふうに思っております。もう少し小さくならないものでしょうか。これは小言でありますけれども。

1点、今、ちまたのニュースの中、いわゆる「はやぶさ2号」の話がよく出ておると思いますが、これは私も仕事柄、非常に興味がありまして、小宇宙、小惑星のリュウグウに軟着陸を2度もしたと。で、そのリュウグウの鉱物を採取したと。実はこれは人類始めて最初のことでありまして、月にはアポロが軟着陸をしまして、石を持ち帰っておりますわけですが、その他の星座、星雲にそういうものを持ち帰るということはないので、やっぱり日本の技術はすごいと思うわけであります。

世界に冠たる日本の技術、僕は、当初、これが一番最初に申し上げたと記憶をしておるんですけど、この「はやぶさ2」における、いわゆる宇宙探査技術、これはNASAも当然認知をしております、この技術を教えてくださいということで、NASAからもそういう調査依頼があるようであります。それから、ハイブリッドカーで代表されますように、エコカー、これも日本のすばらしい製造技術、世界に冠たる製造技術でございます。それから、もう当たり前のことになっておりますけれども、ロボット制御技術、いわゆる生産設備の中で、ロボットを駆使して、無人でシステムを立ち上げていくという、この技術も世界に冠たるものでありますし、それから、リチウムイオン、ニッケル、二次電池、これも、鳥取にも実を言うとつくる工場がありますけれども、これも世界一。数えあげれば、もう本当にきりがございませんけれども、よく自衛隊でお使いになっておられる装置の中で、海水を真水に転換をさせる技術、これも世界一でございます。

このように、私たちの周りには、本当に世界一のものがたくさんあるにもかかわらず、日本の今の生産、GDPは世界第3位という形になったわけでありまして、このあたりをよくよく考えていかないと、ますます日本の国力が減退するというふうに思うわけでありまして。

2040年には人口が7,500万人になると言われて久しいわけですが、私たちはこの問題に関して手をこまねいておるわけにいかないわけでありまして、この厳然たる事実を念頭に置いていただきまして、この第1回の鳥取市総合企画委員会の中で十分鳥取市のために、また日本国のためにということを協議願えたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

【林副委員長】

副委員長に就任させていただきました林由紀子と申します。今、安田委員長さんの非常に大きな、世界に冠たる日本というお話をいただきましたが、鳥取県も人口は一番全国で少ないんですけども、きらりと光るようなものはたくさんあるし、鳥取市もいろんな取り組みをしてきているのですごいと思っておりますが、どうしても人口が減り、そしてお金も徐々に減っていく。その中で、やっぱりここは違うぞと思うような鳥取市を皆さんの力で、そういう計画になるようにできたらいいなと思っております。安田委員長さんをお支えしながら、皆さんの意見もいろいろいただいて、いい形で委員会を運営することができればと思っておりますので、どうぞ皆様、御協力方、よろしく願いいたします。

5 諮問

6 議事

【高橋企画推進部長】

それでは、議事に入りたいと思います。本委員会の条例によりまして、議長は委員長にお願いするということになっております。それでは、安田委員長、以降の進行をよろしく願いいたします。

【安田委員長】

それでは、議事に入らせていただきます。お手元の資料の次第にのっとりまして進行してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、鳥取市の人口動向（平成30年）について、事務局より説明いたします。

【塩谷政策企画課長】

政策企画課の塩谷と申します。どうぞよろしく願いいたします。

鳥取市の人口動向（平成30年）、資料1をご覧ください。この中で、上の四角の中に、総括的に星を3つ掲げて記入をしております。まず1つ目の星ですけども、平成30年の出生数は微増、それから死亡数は微減ということで、引き続き自然減の状態であるということがございます。自然減といいますのは、死亡数が出生数を上回っているというようなことで、自然減ということがございます。

2つ目の星ですけども、転入は県外、県内ともに減少ということ。また、転出について、県内、県外とも増加ということで、転出の超過が増加したというような状況でございます。

それから、3つ目の星ですけれども、先ほどの自然減、それから2番目の社会減の状態が続いておまして、今後も出生率、出生数の向上や若者の転出超過の抑制、移住定住の促進など、人口減少の抑制につながる積極的な取り組みが必要であるというふうにまとめております。

具体的にその下を見ていきますと、まず、1番目の自然動態の推移というところがございます。先ほども申し上げましたが、出生数が微増ということで、平成29年よりは平成30年が22人多く生まれて、1,442人ということがございます。それから、死亡数は微減ということで、昨年よりも51人減ということで、2,213人ということがございます。そこにある自然動態の推移ということで、出生数と死亡数を平成23年度からずっと推移を記入しております。ずっと自然減の状態が続いておるといようなところがございます。それから、その下の表の出生数と合計特殊出生率の推移ということもございますが、こちらを見ていただきますと、平成27年からこの地方創生という取り組みを進めておるのですが、そのときの鳥取市の合計特殊出生率は1.66ということございました。そこから毎年0.1ポイントずつ下がっておりまして、平成28年が1.55、平成29年が1.45ということで、直近の数字はまだ出ておりませんので、平成30年はまだ未確定ということですが、今の状況でいくと余り期待はできないかなというところがございます。

それから、2つ目の社会動態の推移ということですが、転入数が減少ということで、県内からの転入、県外からの転入とも減少ということで、昨年度、29よりも272人の減少ということで、4,681人ということですが、それから、転出数は増加ということで、県内転出、それから県外への転出ということで、両方とも増加ということで、130人増加をしております。平成30年で5,409人という転出者数でございます。

四角で囲っておりますが、転出超過が増加ということで、平成30年は728人の転出超過ということがございます。平成29年と比べると402人ふえているというような状況でございます。一番下に転出超過数の推移をずっと書いておりますが、平成28年、29年のあたりは若干転出超過数が減っておったのですが、平成30年で△の728人ということで、また少し転出超過がふえたというようなことがございます。この要因につきましてはいろいろあるとは思いますが、東京一極集中が進んでおるといこと。それから、企業につきましても、大学を卒業して就職される若い方たちが、やはり初任給の多いところとか、そういったことで、東京なり都市部に出ていってしまうというようなこと

がありまして、この転出の超過が続いておるといような状況でございます。

裏に行きまして、転出超過の主な原因と申しますか、先ほど申し上げたように、若い方が転出をしているということで、そちらに若年層の転入転出の状況ということで、平成22年からの推移を載せております。やはり20歳から24歳のあたりは、毎年400人、500人ぐらいの転出超過ということで、このあたりの転出超過が鳥取市の人口減少の要因にもなっておるといような状況でございます。

それから、下の参考で、平成27年の国勢調査の人口、それから人口推計との比較というように、Cというところが平成27年の国勢調査の人口、19万3,717人というのが平成27年の国勢調査です。来年、国勢調査が行われますけれども、まだその数値を見ないとわかりませんが、先ほど副市長も申し上げましたけれども、直近の住基人口でいきますと18万7,000人ぐらいになっておるといようなところでございますので、人口減少に歯どめがかかっていないといような状況でございます。

人口動向につきましては以上でございます。

【安田委員長】

ありがとうございます。この説明におきまして、何か御質問、御意見等がございましたらお受けいたします。いかがでしょうか。

冒頭、私の挨拶の中で2040年ということを上申したと思っておりますが、実は間違っております。2060年でございます。あと40年先の話でございます。失礼いたしました。

今の説明に対しまして、何かございませんでしょうか。なければ、次に行かせていただきますが、よろしいですか。それでは、次に移らせていただきます。

続きまして、鳥取市創生総合戦略の外部評価について、資料2並びに資料2-1、2-2、これを事務局より説明をお願いいたします。

【塩谷政策企画課長】

資料の2、それから資料2-1、それから資料の2-2の説明をさせていただきます。

資料の2をご覧ください。鳥取市創生総合戦略の施策評価の一覧表ということでまとめたものでございます。委員の皆様は外部評価ということで、20名の委員を、ひとつづくりに7名、しごとづくりに6名、まちづくりに7名というふうに分野を分けまして、それぞれ評価をいただいたものでございます。

内部評価の結果を踏まえまして、A、B、C、Dの4段階での評価をお願いしたところ

でございます。評価につきましては、最も多い評価を評価結果として採用しております。また、評価結果が同数の場合は低い評価結果を採用しているというふうに表示しております。そのA、B、C、Dの4つの評価での評価区分です。それから星印の2番目ですけれども、取り組み状況の概要ということで、下の表も一緒に見ていただきますけれども、取り組みは全体としておおむね順調であるということで、達成と順調を合わせたの割合につきましては71%ということでございます。KPI、重要業績評価指標といいますが、目標値のKPIでは、そこにあります放課後児童クラブ数、これはナンバー27となっておりますが、28です。申し訳ございません。訂正をお願いしたいと思います。

こちらは、資料2の7ページの一番下のところの28番、放課後児童クラブ・放課後子ども教室による児童の健全な発達の促進というようなことで、実績としましては62カ所、達成率が109%ということで、達成というようなことでございます。

それから、もう一回表に返っていただきまして、シルバー人材センター派遣事業受注件数、ナンバー72ですけれども、こちらはページでいきますと18ページの72番ですけれども、市のシルバー人材センターの運営支援による高齢者の就業機会の確保と拡大ということで、実績につきましては派遣事業受注件数54件ということで、達成率約159%というようなことで、達成をしているというところです。

それから、また表にかえりまして、国際観光客サポートセンター利用者数、ナンバー94、こちらが24ページの一番下です。94番、外国人観光客の受け入れ体制の整備、広報・誘客活動による国際観光の推進ということで、実績としましては、国際観光客サポートセンター利用者数が1万4,511人、達成率は約131%で達成というようなことなど、表に返っていただきまして、こういったことで、33項目で目標を達成したというところでございます。本年度の総合戦略の改定において、施策内容及びKPI等の見直しを行っていくということでございます。

それから、星の3番のKPIの評価状況ということですが、先ほど申し上げましたように、達成と順調を合わせると71%ということでございます。それから、未評価の4というのが下に米印がありますが、こちら、県が観光入り込み客数を明日発表されるというようなことですので、その数字が入ったら、また評価をお願いしたいと思っております。それから、隣の外部評価のA、B、C、Dのところでございますが、AとBの評価を合わせますと、割合でいくと85%ということで、今回、D評価がなくて、C評価が17件ということで、15%というような結果になっております。

それから、一番下の4番、主な課題と方針ですけれども、まず一つが、出生数の減少、死亡数の増加による人口減少ということであります。先ほども申し上げましたように、合計特殊出生率は低下をしていると。平成27年、1.66が平成29年、1.45ということでございます。それから、少子化進行の歯どめには至っていないということから、結婚支援施策を推進、それから企業の働き方改革を推進、それから子育てしやすい職場環境づくりを進めていくというようなことが必要であると思っております。

それから、2番目の若者定住、先ほど申し上げましたけれども、10代後半から20代の転出超過数は、平均すると横ばい、500数人ですけれども、地域や産業を支える若者の流出に歯どめをかけ、若者定着やUJIターンを推進するためのさらなる取り組みが必要であるということでございます。

それから、3つ目、人手不足の解消ということで、雇用情勢の改善に伴い、今後も深刻化が予想される人手不足を解消するため、人材確保、人材育成、生産性の向上の一体的な推進が必要であるということを書いております。

上記の課題に対応するため、効果的な施策を市民、団体、企業、教育機関等一体となりまして、また、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏を構成する各町と連携して取り組んでいくというようなことでまとめております。

以上が資料の2です。

続きまして、資料の2-1でございます。先ほど外部評価をいただいて、C、Dについての記入ということで、今回、D評価がありませんでしたので、C評価のものの一覧としてまとめたものでございます。全部で18項目ありますけれども、先ほどの表では17項目と申し上げましたが、一番上の管理番号2番につきましては基本目標というところですので、施策からは外して、17項目というふうに記入をさせていただきました。こちらのC評価のものにつきましては、次回、10月に開催する予定にしております総合企画委員会で現在の取り組みは説明をさせていただくということで、今日のところはこの説明はございませんので、よろしくお願いいたします。

それから、次に資料の2-2、A4の横のものでございます。各委員の皆様には施策評価をしていただいたときに、質問でありますとか、御意見をいただいております。それをまとめたものでございます。例年ですと、これを一つ一つ、こちらから説明もやっておったのですが、今回件数が多いということで、全部で46件の御意見、質問がございましたので、ちょっと時間がございませんので、一応事前に皆様には見ていただいていると

ということで、また後で追加の質問等がございましたらお受けするという形にさせていただきますと思います。

この中で1点、2ページの管理番号80番、真ん中の森本委員さんの御意見であります。質問内容としましては、限られた企業数では就職達成率半数に満たないのは仕方ないが、総合評価順調とは言えないのではということ、先ほどの資料2の21ページを開いていただきまして、一番上の80番です。施策名としては、鳥取市無料職業紹介所によるUJIターン希望の求職者と市内企業とのマッチング支援ということで、こちらを横に行ってみますと、内部評価の評価区分は順調となっておりますけれども、これが前年よりも達成率が低いですし、それから、実績で24%。達成率も40%と。なので、順調ではないのではないかという森本委員さんからの御意見をいただきまして、担当課の回答としましては、委員御指摘のとおり、達成率が前年を下回っており、評価を遅延へと修正しますと。今後も求職者に寄り添いながら、一人でも多くの方の就職につながるよう取り組んでまいりますという回答にしておりますので、この「順調」というのを「遅延」に変更させていただきますと思います。こちらの内部評価が「遅延」に変わりますので、外部評価も変わるのではないかということで、またこれも後日、もう一度評価表を送らせていただきますので、再度、評価をお願いしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上で資料2、資料2-1、2-2の説明を終わります。

【安田委員長】

ありがとうございます。今回は委員の皆様、半数以上が新しい役員という形でございますので、たくさんの御質問をいただきました。まとめて事前にご覧いただいたと思いますけれども、いや、これではちょっと不満足である、さらにちょっとお尋ねしたいというようなことがございましたら、挙手をお願いできますでしょうか。自分の質問に対しては拝見なさったと思いますけれども。不満足であるか、いや、もう少しこれが言いたいというようなことがありますれば。いかがでしょうか。御遠慮なさらず。質問については担当部長さん、事務局が対応いたしますので、忌憚のないところをお聞かせ願えたらと思いますけど。

大変な、たくさんの項目でございますので、こういう形にさせていただきましたけど、なければ、次に移らせていただいてもよろしいですか。

ないようですので、次に移らせていただきます。

それでは、続きまして、次期の鳥取市総合計画の策定方針及び鳥取市創生総合戦略の改

定について、資料3並びに資料3-1、3-2、議事(4)の鳥取市民アンケートの実施について資料4、これを一括して事務局より説明をいただきます。

【塩谷政策企画課長】

資料3をご覧ください。次期総合計画及び総合戦略の策定に向けた取り組み方針ということで、A4の表裏になっております。

まず1番目ですけれども、次期総合計画の取り組み方針についてということで、(1)基本的な方向ということでございます。次の方向に沿って基本構想、基本計画を策定するというふうに考えております。①番から⑤番までありますが、まず①番、人口減少・少子高齢化社会を前提とした計画、それから②番目、若い世代の意見を取り入れた計画、それから③、市民ニーズ、社会経済情勢、社会制度の変化への対応、それから④、効率的、効果的、戦略的な市政経営の視点、それから⑤、市民にとってわかりやすい計画というふうな5つの基本的な方向性で策定してまいりたいと考えております。

(2)番目で、新たに反映させる要素ということで、まず①番目ですけれども、中核市として、圏域全体を見据えた市政経営の視点ということがまず1つ目。それから②がSDGsの観点、それから③がSociety 5.0の観点ということで、SDGsの観点につきましては、資料の3-1という附属の資料をつけておりますし、Society 5.0の観点ということで、資料の3-2の資料をつけております。こちらは、国の総合戦略の策定の基本方針にも掲げておりまして、昨今の世界情勢といえますか、そういったところから来ているものでございます。SDGsというのが持続可能な開発目標ということで、こちらは2015年の国連のサミットで全会一致で採択されたものでございます。誰一人取り残さない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標ということで、そちらに図が描いてありますけれども、1番から17番まで、いろいろ貧困でありますとか、飢餓でありますとか、保健、教育、ジェンダー等々、いろんな目標がございまして、こちらを国を挙げてといえますか、国なり市町村、企業、全てのところがこの目標に向かってやっていきたいと思いますというふうな開発目標でございまして、こういったものを総合計画なり総合戦略にも考え方を入れていくというふうなことで、策定をするというふうなところでございます。

それからもう一つ、資料3-2ですが、Society 5.0ということで、こちらにも図をつけておりますけれども、段階がSociety 1.0から5.0まであります。1.0が狩猟、それから2.0が農耕、3.0が工業、4.0が情報ということで、次の新た

な社会ということでSociety 5.0というようなことで、IoTでありますとか、AI、人工知能でありますとか、ロボットの活用とか、そういったいろんなことで時代が進歩して変わっていくということで、それに対応した計画をつくっていかうというようなところでのSociety 5.0ということの観点というところでございます。こちらはまたゆっくりご覧いただいたらと思いますので、よろしく申し上げます。

資料3に戻っていただきまして、(3)の計画の構成等ということで、まず①番、構成内容は現行計画と同様とするということで、10次総を基本にということでございます。3階層でつくる予定にしております、まず基本構想ということで、将来像を明確に定める、基本構想の構想期間は10年間ということで、令和3年度から令和12年度までの10年間でございます。それから、基本計画は、将来像を実現するための基本的方向及び具体的施策とKPIを定めるということで、基本計画期間は5年間ということで、令和3年度から令和7年度まででございます。それから、その下の実施計画、こちらは基本計画で示す施策の具体的な事業を前期と後期に区分して定めるということで、実施計画の計画期間としましては、前期が令和3年度から令和5年度の3年間、それから、後期が1年ダブるのですけれども、後期が令和5年度から令和7年度までの3年間というふうに計画をつくる予定にしております。

それから、②番目の、次期総合計画における総合戦略の位置づけということでございます。こちらは、現行計画同様、総合計画基本計画の重点施策（人口減少対策）として位置づけるということで、その下に図を描いておりますけれども、総合計画の基本計画の中に重点施策ということで鳥取市創生総合戦略を位置づけております。

また、③番目の連携中枢都市圏ビジョンの位置づけということで、こちらも地方創生の取り組みの一環として総合戦略に包含し、重点施策として位置づけるということで、その下に因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏のビジョンというのも入れております。

はぐっていただきまして、裏面でございます。2番で、鳥取市創生総合戦略の改定についてということで、(1)番、計画期間についてということでございます。現行の鳥取市創生総合戦略の計画期間は平成27年度から令和元年度、今年度ですけれども、5年間となっております。本市における施策を効果的・計画的に推進するため、次期総合計画と一体的に策定する必要があるということでございます。このため、創生総合戦略の計画期間を1年間延長して令和2年度までとし、令和3年度から令和7年度までを計画期間とする次期創生総合戦略の策定に向けて取り組むこととするということを記入しております。

そこにちょっと図を記入させていただいておりますが、まず現行を見ていただきますと、オレンジの部分の総合戦略は平成27年度から始まっているのですが、第10次の基本計画、その上の青いところは28年度からということで、1年間ずれが生じております。総合計画でいきますと、11次総は令和3年度からですが、総合戦略は来年度、令和2年から通常ですと始まる計画になっております。これを、下の改定というふうにしておりますが、総合戦略を1年間延長しまして、総合戦略期間を6年間に延ばして、令和3年度から11次総と次期の総合戦略を同時にスタートさせたいということで今計画をしております。1年間総合戦略を延長して、令和3年度の総合計画と総合戦略の始期を一緒にするという計画にしております。

(2) 現創生総合戦略のKPIの設定についてということで、5年間の目標値となっているものについては、現行の総合計画の基本目標と整合性を図りながら、6年間の目標値を設定することとしておりまして、その他のKPIについては、基本的には現在の方向性を引き継ぐこととするが、いずれのKPIについても、現在の達成状況や効果検証を踏まえて見直しを行うというようなことで記入をしております。ですので、国は今年度、次期総合戦略を策定されると思うのですが、鳥取市は今の現行の総合戦略を1年延長して、令和3年度からの総合戦略にしたいというように考えております。

3番目、今後の主なスケジュールということで、まず、本年度、令和元年度ですが、市民アンケート調査、都市特性分析、基礎データの収集・分析、また各種団体等との意見交換、ストリートミーティング等です。それから、現行総合計画及び創生総合戦略の成果検証、それから創生総合戦略の改定、それから次期総合計画・創生総合戦略の策定方針の策定というようなことを今年度予定しております。

(2) で、令和2年度、来年度でございますが、骨子案（基本構想、基本計画、創生総合戦略）の作成・審議、それから素案の作成審議、それから総合企画委員会、地域振興会議、議会等で素案の審議・市民政策コメントの実施等を考えております。それから原案の作成、それから前期実施計画の作成、それから議会への基本構想の上程ということで、総合計画につきましては、基本構想部分が議決の事項になっておりますので、2月議会に基本構想を上程するというような予定にしております。そうしまして、令和3年4月から次期総合計画と次期創生総合戦略がスタートするというようなスケジュールで進めていきたいと考えております。

続きまして、資料の4をご覧ください。資料の4は、令和元年度鳥取市総合計画市民ア

ンケート調査についてということで、裏表のA4で資料をつくっております。

まず、調査の目的ですけれども、第10次鳥取市総合計画の基本構想と基本計画には、計画に基づく事業の成果を市民にわかりやすく示すため、数値目標が掲げられておるところでございます。この数値目標につきましては、毎年達成状況を進行管理している項目と、それから、計画の一定期間経過後に市民の日常生活における満足度について市民アンケートを実施し、事業の達成状況を把握する項目があります。このアンケート調査は、これらの項目について、市民の満足度を把握するために実施するものでございます。また、調査結果は次期総合計画策定の基礎的資料としても活用するというところでございます。

2番の調査内容でございます。前回、平成26年度の市民アンケート調査の結果が数値目標の基準値となっているため、これらの調査から必要な質問項目を整理したアンケートを調査票とします。ということで、調査項目の構成比較ということで、前回の平成26年度に行ったものと、それから今年度、令和元年度に実施する予定の項目をそこに載せております。令和元年度につきましては、⑧の、本市の近年の状況に応じた質問項目ということで、先ほどからあります中核市でありますとか、連携中枢都市圏でありますとか、そういった新たな動きもありますので、そういった質問項目も追加して実施すると。ただ、前回の平成26年度との対比というのがございますので、平成26年度の対比がわかるような内容にして、平成26年度と令和元年度でどれくらい変わったかというようなことがわかるような、そういったアンケートにしたいと思っております。

3番の調査スケジュールでございます。5月27日に公募型のプロポーザルを実施いたしまして、山陰合同銀行さんにこの調査業務の委託が決定しております。今、アンケートの準備をしておりますが、8月から9月でアンケート調査を実施いたしまして、11月下旬にはアンケートの結果集計、分析ができるものと思っております。

それから、4番の対象者でございます。鳥取市に居住する15歳以上の者から無作為に抽出した4,000人ということで、4,000人の方にアンケート調査を送付する予定にしております。

それから、5番の調査実施についての広報ということで、市報に掲載、またホームページに掲載していくというようなところでございます。

それから、裏面の6番で、その他のアンケート調査についてということで、そこに3点ほど掲げております。まず1つ目が、高校生・大学生への意識調査。これは実施しておりますが、市内の高校3年及び大学生1,000人程度を対象としまして、進路希望や今後

の定住意向に関する意識調査を実施しております。それから、2番目の転出者アンケートということで、鳥取市を転出する方を対象に、転出手続時に転出理由等に関するアンケートを実施しています。こちらは、市民課等の窓口に来られた転出される方に任意でお願いをしているというものでございまして、これは本年の5月から実施をしておるところでございます。それから、3つ目の鳥取市のイメージ調査ということで、こちらは都市部に居住しておられる、首都圏500名、関西圏500名、計1,000名を対象とした鳥取市のイメージ調査をウェブアンケートで実施するというところで、こちら山陰合同銀行さんに業務を委託いたしまして、イメージ調査もするというようなところで進めておるところでございます。

それから、別紙でつけておりますけども、鳥取市民アンケート調査票の案ということで、ホッチキスどめのアンケート調査票をつけております。こちらが実際に市民の皆様にお送りするアンケートの調査票ということで、かなりのボリュームがありますので、なかなか回収率も半分ぐらいかなとは思っておるのですけれども、こちらのアンケートを実施していくというところでございます。

前回と変更になった点につきましては、1ページでいいますと、⑧番の通勤・通学先地域ということで、10番、鳥取県東部の4町、それから11番に兵庫県北部というようなことで圏域等の項目を追加したというようなものがあります。

それから、はぐっていただいて、3ページに表が描いてあると思っておりますけれども、前回のアンケート調査では、満足度というところまでしか聞いていなかったのですけれども、今回は、それプラス重要度ということで、4段階の重要度を加えております。こちらは、分析される山陰合同銀行さんからの要望もありまして、満足度だけではなくて、重要度というのと一緒に聞いてはどうかという提案がございましたので、満足度と重要度を聞くというようなアンケートの調査票となっております。なかなか答えるほうとしては少し面倒かもしれませんが、重要度、満足度と両方聞くというようなところがございます。

それから、6ページのあたり、質問4の、鳥取市の将来像についてお尋ねしますという項目で、そこに1番から13番までありますけれども、追加した項目は、その13番の一番下の、因幡・但馬の圏域自治体と連携・協力し、圏域の発展を牽引する都市というような選択肢をふやしております。

それから、8ページの質問5のところ、鳥取市の情報提供についてお尋ねしますという項目がありますけども、こちらの②と③は新たに追加したものでございます。②

が、鳥取市から提供される情報を主にどのような手段で入手されますかというような項目、それから③が、ふだん鳥取市から提供される情報にどの程度関心を持っていますかというようなところを追加で加えております。

それから、11ページ、質問の8は追加した質問でございます。因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏についてということで、質問の8は丸々新規の質問というところでございます。

以上がアンケート調査票の説明でございます。

【安田委員長】

何か御質問や御意見等ありましたらお願いいたします。ちなみに平成26年度、アンケートの回収率はどれぐらいありましたか。ちょっと古い話で申しわけないです。

【塩谷政策企画課長】

平成26年度は、送付者4,000人に対しまして、回収数が2,050人ということで、回収率は51.3%です。

【安田委員長】

優秀ですね。なるほど、半分以上になっているということですね。ここらでいかがでしょう。御意見はございませんか。

【清水委員】

ちょっとよろしいですか。

【安田委員長】

どうぞ。

【清水委員】

いなば農協の清水でございます。新しいアンケートに中核都市なりの分野が追加されているということで、これを踏まえて次の計画に盛り込むという方向性ということで理解してよろしいわけですね。そうなりますと、中核圏域の方針そのもの、関係市町全体の方針というのにはどういうふうリンクされるという流れを予定しておられるのでしょうか。

【安田委員長】

事務局お願いします。

【塩谷政策企画課長】

総合計画なり総合戦略は、それぞれの市町で策定はされているものでございますので、それぞれの市町の総合戦略はそれで策定をされると思いますけれども、先ほど申し上げま

した因幡・但馬麒麟のまちの連携中枢都市圏のビジョンというものがございます。こちらは、ビジョンの中に90事業の連携してやる事業を掲げておるのですけれども、そういったところと一緒にやっというふうなことで進めておるところでございます。それも踏まえて、各市町とも連携してやっというところは掲げるつもりですけれども、ちょっとアンケートではそれが見えないところはあるかもしれませんけれども、計画上は協力してやっというところでございます。

【安田委員長】

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。せっかくですので、どなたでも結構ですから。よろしいでしょうか。

ないようでございますので、次に行かせていただきます。

ちょっと早過ぎるのですが、皆さんの御協力で、この暑いせいかもわかりませんが、せっかくですので、今回、初めて新任でこの委員会をチョイスしていただきました方に、何か感じるどころか、それとも今現在、いろんな悩み、突然の話で申しわけございませんけれども、何かありましたら一言、二言いただけませんかでしょうか。

吉田さんは引き継ぎでしたか。

【吉田委員】

いや、初めてです。

【安田委員長】

初めてですね。吉田さん、その次に山本さんですか、ちょっと一言いただけませんか。

【吉田委員】

青年商工会の吉田と申します。僕も会社を経営しております、従業員を30人ほど抱えています。この間、若い子が結婚されたんですけれども、結婚式を挙げないという形が今非常に増えておりまして、まだ23歳、4歳ですけれども、子どもを産むつもりがないというお話をされている状況でございます。もちろん弊社もお給料とか、お休み、休みは国の政策にのっとりまして、徐々に増やしていつているのですけれども、やはりなかなか賃金を上げられる状態でもない中で、先ほどの出生率も見たのですが、その対策というのは、もちろん鳥取市だけではなくて、一企業としても、やはり責任を感じておりますし、逆に私、もうすぐ子どもがまた産まれるのですが、そういう、また子育てできる幸せというものを少しずつ若い子に伝えていかなければいけないなというふうにも感じておりますし、そこを仕事云々に限らずに、鳥取市のやはり人口を増やす意味では、何か協力ができ

たらなというふうに考えますので、そういった身近なことを少しずつ、またもう1年間考えさせていただきたいというふうに思います。

【安田委員長】

ありがとうございます。ごめんなさい、山本さん。

【山本委員】

山本です。私の一市民的な感覚でいくと、まず、この国、地域もそうだと思うんですが、何かまだ自分たちが、特に若い世代が思っている感覚、要望したい感覚というのと、またここで話し合われていることは、やっぱり組織を動かすことの内容を話しているのが難しいところですが、その剥離というか、まだ差をすごく感じるというのが率直な意見ですし、ただ、その意見をどう反映させていくかということはすごく難しいですし、実行していくというのはもっと難しい。今回いろいろ資料を見ても、いろいろ思うことはあるのですが、よく考えると、でも、それは難しいなとか、自分でもこういう委員会に出席して、私、市役所の方のこととかを考えると、組織として考えると難しいなとすごく思っていて、今回、委員会に参加しても、意見といっても、もうふわあんと、この辺に、まだこういう組織とかこの内容が、まだちゃんと全てが鳥取市のことがわかっていない、しかも移住して1年。高校生のおきまではいたんですけども、どうかかわっていったらいいのかというのは、すごく今困惑しているというところです。

例えば、今も委員長さんから意見がありませんかと言われますけれども、意見とか質問となると、かなり準備してこないと無理だなというふうに感じているのが率直な意見で、私の思っているもやもやをどう反映させていくか、すごく難しいなと今感じているところでもあります。すみません、あんまり大した意見がなくて申し訳ないですが。

【安田委員長】

いやいや、ありがとうございます。浜江さん、何か一言いただけますでしょうか。

【浜江委員】

年はたっておりますが、参加は初めての浜江と申します。私は青谷町の地域振興会議に参加させていただいて、そのときも、その会に出て、あら、こんなことがあったんだと、改めて知ることがとてもたくさんありました。今日もここに参加させていただいて、ああ、そうなのか、まず驚いたのは、前回の会のおきに、こんな分厚いのをいただいて、これを評価しなさいと、何だろうなと思いつながら、一言一句を理解するのに、何か冊子がありましたよね、あれをめくりながら、まあ、この年にして知らないことばかりだなと、恥ず

かしい気持ちを抱きながら、少しずつわかってきたのが実情です。やっぱり私も仕事をしていたのでというのが言い訳ですけれども、本当に世の中というか、地域のことを知ろうとしていなかった。情報をいっぱいいただいていたのに、本当に知っていなかったことがたくさんありました。青谷でも思ったのですが、今日もここに出て、市全体のこと、本当に知らないなと思いました。こういう場に参加させていただいている私は個人的にとっても得をしているのですが、これを本当に、せっかく青谷から来たのに、青谷のためにどうしたらいいのかなというのが一つの悩みです。

今、アンケートを見させていただいて、次のアンケートですね。地域のことについてどれくらい関心を持っているのかな、参加しようとしているのかなということを問うている項目がありました。私はここにとっても興味を持っています。企画される方はたくさんされるのに、本当に参加しない。もう申し訳ないような気持ちでいっぱいです。もう一つは、それとは裏返しかどうかは知らないですけれども、市からは、地域の力で、地域で何とかと言われるのですけれども、それをする世代が限られています。仕事をしているから、子育て中だから、いろいろな理由をつけて、実際の企画に参加しようとしません。企画しても、それに賛同しようとしません、参加しようとしません。このあたりをどのように解決していったらいいのかなと思いつつながら、私は遅ればせながら、青谷のいろいろな行事に参加しようとして、あちこちおばさんをしているところです。

そんなような状態なので、もう少し理解させていただくのに時間が必要かと思いますが、私の悩みは、とにかく盛り上げる人々をどのように育てていったらいいかなというところだと思います。くだらない意見で……。

【安田委員長】

いやいや、ありがとうございます。非常に含蓄のある言葉でございます。杉本さん、よろしいでしょうか。

【杉本委員】

杉本です。私も初めて、今回この会に参加させていただきました。在職中は教育の現場にずっとおりましたので、鳥取市の総合計画を見て、そこから教育にどうつながってというようなところは、自分なりには鳥取市のものを見てきたつもりではいたんですけども、私も今回いろんな資料をたくさんいただいて、本当に鳥取市という大きなくくりの中で、この会では、ひとづくり、しごとづくり、まちづくりという3つの柱になっておりますけれども、それらが本当に融合されて、鳥取市というまちをどうこれから育てていくのか、

未来ビジョンはどのようなかという視点でこういう会があって、市の行政の皆さんがいろいろ知恵を出されているんだなということ、ここに参加させていただいて、実感しているところです。

ただ、私が教育の現場におりましたときも、私の20代、30代の若い頃から比べますと、本当にこの何十年の教育の中でも、地域の人たちのたくさんのお力や、それから保護者さん、あるいはたくさんのお客様、会社の専門家の方とか、そういう方々のお力をお借りして子どもたちを育てていくというところは、すごく浸透してきているというか、そういうところはあったのかなというふうに思いますけれども、まだまだ鳥取市にはいいものがたくさんあって、それをどうやって皆さんと共有しながら、鳥取市をよりよいものにしていくのかというところで、私もひとついろいろ考えさせていただけたらなというふうに、今回、この会に参加して思っているところです。以上です。

【安田委員長】

ありがとうございます。子育ての関係で、山田康子さん、よろしいでしょうか。一言お願いできますでしょうか。

【山田委員】

私は、地域で子育てをみんなでしていこうという視点で活動してはいるんですが、ちょっと一つ気になる、アンケートのことで御質問というか、してもいいですか。

【安田委員長】

はい、どうぞ。

【山田委員】

7ページの、鳥取市では、子育てしやすい環境づくりなどに取り組んでいます、今、子育てをしていますかという5番の問いはいいんですが、6番の子育てを楽しんでいると感じますかという問いもまあいいんですが、鳥取市としてというか、鳥取で子育てをして、子育てしやすかったかどうか、子育てしやすい環境をつくっていくという視点からいうと、子育てがしやすかったですかとか、何かそういう質問があってもいいのかなというふうにちらっと思いました。今子育てをしている人が、逆に言えば、どういうところが不満ではないですかけれども、こういうことがあればいいという何かその他とかで括弧書きに具体的にとかいというアイデアとか御意見がいただければ、また次の子育ての環境づくりにつながっていくのかなというふうにアンケートを見ながら感じました。

私もまだまだ勉強不足なところで難しいなというふうに感じる場所もあるんですけれ

ども、鳥取市全体で子育てがしやすい鳥取だよということが広がっていけば、先ほどどなたかも言われていましたけれども、やっぱり子どもの笑い声があちこちにある鳥取がずっと続いていくような、何かしらいい形に結びつけるようになっていけばいいのかなというふうに思っています。

【安田委員長】

ありがとうございました。アンケートの件で、事務局お願いします。

【塩谷政策企画課長】

アンケート項目につきましては今の段階では案でございますので、いただいた御意見も参考にして、検討したいと思います。

【安田委員長】

ぜひお願いしたいと思います。それでは、森本さん、何か御意見をいただけませんか。

【森本委員】

自治連に出まして、今回初めて参加させていただいたんですけれども、アンケートをされるのは結構ですけれども、2年に1遍、地域づくり懇談会というのがありますね、各地区を回られて、そのときの議題、私は湖南地区で11月に予定をしてやっているんですけれども、その議題の選定がなかなか難しいと。去年されたところの地区の議事録をちょっと見せていただいたんですけれども、要は地区の課題だというふうに書いてあるんですが、何か物足りないところがある。本当にまちづくりの協議会であれば、その地区の課題というのはその地区でないとわからない。それに対する地区の意見等を、市は各地区を回るわけですよ、全地区を。アンケートするより確実な意見が多分入ってくると思うんです。そういう協議会の議事録等も参考にされて、こういう計画の一環にさせていただければいいなというふうに思います。

それと、これは自治連の関係ですが、鳥取市は公民館のあり方、それからまちづくり協議会のあり方、ある団体なんですけれども、これについて検討をされておられるようですけれども、果たしてこれをどういう状況に持っていかれるのかという結論が見えない。今、宮下、佐治、こういうところがモデル地区として公民館、まちづくり協議会というものをどういうふうにするのかと。モデル地区としてやっておられるんですけれども。そういう課題がいろいろこの旧市の地区と、新しくなられた国府、鹿野、そういうところの地区とのやっぱり隔たりがちょっとあるのではないかなと。行政サービスは各地区平等ではなければならないというふうに思いますけれども、旧市と新しくなった、前の郡部とい

うんですか、そのこの地区との何か差があるような気がします。だから、地域づくりの協議会を通じて、各地区の課題というものを順次吸い上げていただいて、こういう計画に反映していただきたいというふうに思います。以上です。

【安田委員長】

どなたかに回答をくれというようなことはありませんか。

【森本委員】

ありません。

【安田委員長】

よろしいですか。

【森本委員】

会のとくに話をします。

【安田委員長】

わかりました。アンケートについて、ちょっとそういう地域のことを考えてやっているのかというようなことではしょうけど、いかがですか。

【高橋企画推進部長】

地域づくり懇談会の話もありましたけれども、アンケートだけではなくて、いろいろな意見を参考にしていというのは当然でありますので、そちらは考えていきたいと、参考にはもちろんさせていただきたいと思いますし、これからのアンケート、それについては、まだまだ皆さんの意見で変更といいますか、つけ加えたりいたしたいと思いますので、参考にさせていただきたいというふうに思います。

【安田委員長】

森本さん、よろしいですか。

【森本委員】

よろしいです。

【安田委員長】

それでは、小谷さん、何かコメントをいただけますでしょうか。

【小谷委員】

私、市役所に勤めておりまして、総合計画は今まで仕事の中で見ながらしていたので、今回、委員としては初めてなんですけれども、何か自分たちが今まで見てきたものなので、あっ、これでいいかなみたいな何か安易な感じがしていたんですけれども、いつも思うん

ですけれども、すごく計画というのはとてもいいものができているんです。計画はいいものができていると思うんです。

ただ、具体的に市民というか、住民の中に届いて、それが本当に1人ずつが、一人一人が幸せだなと感じられるような施策になっているかなというところで、ちょっと疑問符というところがあって、浜江さんも言うておられたんですけれども、いろんなまちづくりの事業であるとか、公民館の事業とか、いろんなものがたくさん計画されても、出る人は一緒です。では、出ない人はどんなふうに思っているのかなというのを感じながら、私もまちづくり協議会の役をしていますし、地域振興会議にも出させていただいているんですが、そのところが、本当にここに出てみたいと言えりような計画ができていないのかなというように感じています。だから、この計画の中で具体的に本当にこんな計画をしているんですよみたいなところ、それがこんな事業につながっていますよというところが住民のみんなに伝わるようになってほしいなと思いますし、特に広報とか、どうやって入手しているのかというのがあるんですが、私は市役所に勤めているときは、いろんな情報はもう要らないぐらい入っていたんですけれども、家にいたら、本当に自分が読まなければ、市報もそのまま廃棄されているという状況もありますし、ホームページでなんて言っても全然見ない人も多いですし、本当にそういう必要な人に必要な情報をどんなふうに届けばいいのかなというのを今感じています。

だから、市役所に勤めているときには、いっぱい情報を送っているでしょう、みたいになっていたんですが、みんな、それを拾っていません。だから、市報も見られていないな、それから、情報も届いてこなかったりというのはいっぱいあります。私は、いろんな会に出させていただいているので、情報は結構見ないといけないなというものもあるので見ていますけれども、本当に見ていないのではないかなと思います。特に高齢の方は見るということが結構しんどいです。市報はちょっと字が小さいから見えませんし、それから、本当にデータでなんていってもなかなかだと思ひます。河原は町放送があるんですが、結構そこでいろんな研修会の案内とか健康診断の案内とかはあるんですけれども、そういうのでちょっと耳に入ったりはするのかもしれないんですけれども、一部、自分が本当に情報が欲しいなという人はすぐ情報を、その市報を見るとか、いろんな届け物をもって見ていると思うんですけれども、そうではなければ、ほとんどの人が知らないんだなというのをいつも感じています。

あとは、私はいろんなことを通じながら、まず自分というか、本人がかかわらなければ、

やっぱり満足感とか充実感はないというふうに思っていて、そういうふうに自分がかかわるということを住民の皆さんに知ってほしいなというふうに思いながら、日々いろんな事業には出ているんですが、なかなかそういう人たちは少なく、生活していくのには余り関係はないのかもしれないけれども、本当に幸せだなとか鳥取に住んでいてよかったなというふうに思いながら生活しているのかどうかというところを本当にみんな知りたいなというふうに私は思っています。

【安田委員長】

ありがとうございます。それでは、次、井上さん、お願いできますか。

【井上委員】

鳥取銀行の井上でございます。私も今回初めて総合企画委員会に出席をさせていただきました。鳥取市さんで総合戦略に基づいて、本当に多種多様な取り組みをされていらっしゃるというところも、改めて本当に多くの事業をやっていらっしゃるんだなというふうに感じておるところです。特に、私ども評価委員としてしごとづくりの評価ということで携わってさせていただくことになろうかとは思いますが、ふだんから事業者の方と接する機会が非常に多い会社でもございますので、少しそういった状況を御説明させていただければというふうに思うんですけども、ものづくりをされていらっしゃる企業、サービス業をされていらっしゃる企業、物を売っていらっしゃる企業さん、どこの企業さんも今は本当に非常に忙しくされていらっしゃると思います。仕事は本当にたくさんあるということをおっしゃるんですけども、共通して言われることは、やっぱり人がいないと、働き手がいなくて。働き手がいれば、もっと成長できるのになとかいったところの声が本当に多く聞かれます。

反面、会社を経営されていらっしゃる方からは、会社は今、順調だけれども後継者がいないと。これから10年後、20年後を見据えた中で、では、今の自分の会社が残っているのかどうかというところに、やっぱりなかなか課題を持っていらっしゃる経営者の方、たくさんいらっしゃいます。鳥取県内でも後継者不在率というのは70%を超えているというところで、このままいくと本当に廃業が年々、年々増えていってしまうと。そうすると、当然働きたいのに、鳥取市に帰っていきたくて働き場所がないということで、ますます社会減が進行してしまうという悪循環にならないように、金融機関としてもしっかりと事業承継の対策だったりとか、人手不足、人口が減るといっては、これはもういたし方ないと思います。

これから人口を増加させていくというところは、幾ら頑張ってもなかなか難しいかなというふうに思っていますので、少ない人数でいかに生産性を向上させるかといった観点から、銀行側でもいろんなコンサル、ITを活用したりとかAIを活用したりとかといったところをしっかりと事業者の方にサービス提供させていただいて、少ない人数でもしっかりと会社が成長できるような取り組みを今、一生懸命やっているところです。今後もますます力を入れていかないといけないかなというところで考えているところですが、そういった意味では、全ての問題が人口減少に行き着いてしまうといったところはあるとは思いますが、そういった悲観的なところではなくて、若者でも、うちの銀行でもまちづくりに非常に高い関心を持って活動している行員もいたりしますので、鳥取市の若者も全然捨てたものではないなというふうに私自身も感じております。そういった意味では、市民アンケートというのは非常にいい取り組みではなかろうかなというふうに思いますし、でき得れば事業者の方のアンケートなんかももし実施することができるのであれば、個人、市民の方、事業者の方、それぞれの思いをしっかりと認識して、課題を踏まえたところで施策に反映していくといったところが理想なのかなというふうには、個人的には感じてはおります。

あと、いろんな施策をやっているところでもいろんな評価も出てはおりますけれども、やはりその各分野、各分野それぞれが重要な施策だとは思いますが、その中でも、この施策の重要度はどれぐらいなのかといったところの重要度がもし色づけられるのであれば、その重要度が高いものに対して今の状況がどうで、では、それをどうしたらうまく進捗はいくのかとかいったような観点から、皆さんも意見が出しやすいのかなというふうには感じました。ですので、いろんな事業者の方、市民の方の声が集まる場所でもございますので、いろんな形で、これから次期総合計画や総合戦略の策定等々に少しでもお力になればなというふうには感じております。

【安田委員長】

ありがとうございました。総評をいただきまして、ありがとうございました。大体以上で新任の方々の御意見を伺ったと思いますが、欠落していますでしょうか、よろしいでしょうか。

それでは、次に移らせていただきます。その他でございますけれども、事務局より何かございますでしょうか。

【古網創生戦略室企画員】

事務局からお願いの連絡でございます。今回の総合戦略の評価の際に、先ほど申し上げました県の観光入り込み客数等が発表になっていなかったため評価いただけなかったものにつきまして、県の発表後、また内部評価を行いまして、改めて委員の皆様へ評価をお願いしたいと思います。あわせて、本日、内部評価を変更しましたナンバー80の施策についても、あわせて同様に送らせていただきたいと思いますので、また郵便でお送りいたしますので、お手元に届きましたら御協力をお願いしたいと思います。

それともう一つ、国の地方創生推進交付金という国の補助金を活用した事業についても、外部評価お願いしております、こちら、この総合戦略の未評価分とあわせてまた郵送でお送りさせていただきたいと思いますので、またよろしく願いいたします。

次回、第2回の総合企画委員会については、10月下旬を予定しております。また詳細な日程等決まり次第、御連絡を差し上げたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【塩谷政策企画課長】

今日、インターネット放送番組というチラシを机に配付させていただきました。こちらは、昨年から鳥取市がやっているんですけれども、「今夜くらいトットリの話聞いてくれないか」ということでユーチューブで配信をしております、その中ほどに令和元年7月31日水曜日ということで、明日の水曜日が本年度第1回の放送ですけれども、19時から配信をします、時間のあられる方はご覧いただきたいなと思います。中身としましては、MC、サブMC、コメンテーターというようなことで3名のMCの方、コメンテーターが出てこられまして、さらにその回ごとに鳥取市のゲストなり、今回は麒麟のまちということで1市6町に範囲を広げましてのゲストの方も来られてのお話を聞けるというようなことで、明日からであります、放送がありますので、インターネットでユーチューブでご覧いただけたらなと思います。ちなみに第1回は麒麟獅子をテーマにしておりますので、なかなかまたおもしろい内容になっておるとお思いますので、ぜひともご覧いただきたいなと思います。

【安田委員長】

ありがとうございました。私が議長をさせていただきまして、こんなに早く終わるのは初めてでございます。いつも時間が足りなくてでありましたけれども、本日は大変御協力をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和元年度第1回鳥取市総合企画委員会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。